

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

# ほとけの混和会だより

令和二年七月

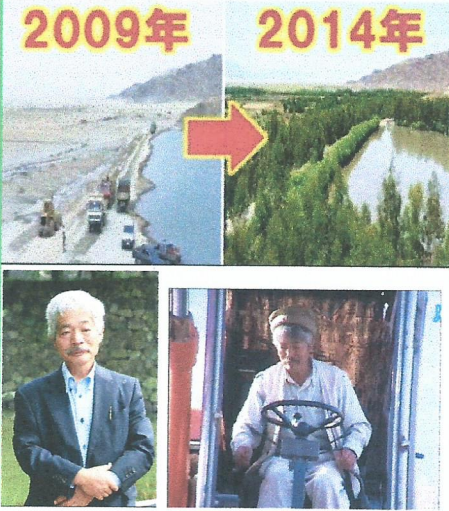
東光院

仏の混和会

第148号

日ごとに猛威を振るう新型コロナウイルス。罹患されてしまわれた方には謹んでお見舞い申し上げます。各地の豪雨災害、何かと不安な日々かと存じます。共に一日も早い復と収束をお祈り申し上げます。共に関係従事者の皆様に心より敬意を表します。

## 一隅を照らす



アフガニスタンで水路建設に携わる医師の中村哲さん

昨年の十二月四日、三十年以上にわたり、アフガニスタンで現地の人々に寄り添い支援を続けてきたZOO「ペシャワール会」現地代表の、医師・中村哲さんが銃撃を受けて死亡致しました。

中村さんは医師で有りながらも自ら大型重機のハンドルを握り、生命の源である灌漑事業に携わってこられました。

よって2008年アフガニスタン国家勲章、2010年アフガニスタン名誉市民権、そして旭日章など、様々な賞を受賞されておられました。

その中村さんが昨年来日された折に講演されたお話の中に「一隅を照らす」と言う言葉を敢えて添えて下さいました。

この一隅を照らすと言う言葉は比叡山の祖師最澄様の言葉なのですが、この言葉に対して、ご自身の実践を踏まえ次のようにお話しして下さいました。「自分の身の回りで出会った人、出会った出来事の中で人として最善を尽くすことではないかというふうに思っています。」

しかし中村さんは仏教徒では無くキリスト教徒として勤めてこられたお方です。

でも私はこの言葉によって中村さんを知る事が出来ました。又、ブッダもキリスト様も思っている事だと思っております。

よって中村さんの言葉を一つ紹介させて頂きたく存じます。

「自然から遊離するバベルの塔は倒れる。人も自然の一部である。それは人間の内部にもあつて生命の営みを律する厳然たる摂理であり、恵みである。

科学や経済、医学や農業、あらゆる人の営みが、自然と人、人と人の和解を探る以外、我々が生き延びる道はないであろう。それがまっとうな文明だと信じている。その声は今小さくとも、やがて現在が裁かれ、大きな潮流とならざるを得ないだろう。」

又「私達の死は他の人々のために意味を持つべきです。」と言っておられました。

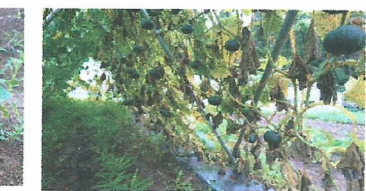


バベルの塔とは自然に対する畏敬の念を忘れた私達のおごりと受け止めました。仏教も同じように大自然大宇宙そのものを「ブッダ」又は大日如来と言ひ大自然の営みの中で人々は生かされ、そこから外れて生きる事は出来ない」と説かれております。

私自身も己の死が人々の心の内に生かされるような生き方が出来たなら、生きる事の意義も見いだせるものと思えます。今後大自然の導きに身を委ね感謝の念を捧げ歩んで参りたいと存じます。

合掌

## ほとけの菜園



自然と共に生きるとスローガンを掲げる「ほとけの菜園」では、長雨により畑の管理がままなりませぬが作物は順調に育ち宙ぶりのカボチャは鈴なりに収穫を待つばかりと成っております。



しかし、サツマイモの「べにはるか」と落花生の「おおまさり」は、やや日照不足かと思ひますが、秋のお彼岸頃にはご接待出来るかと思ひます。そして今年も畑で栽培するお米、「陸稲」にチャレンジしてみました。



これは「おかぼ」とか「りくとう」と呼ばれ、田んぼで栽培するより手間がかからない為、昔はどこでも栽培されていたのですが、果たしてどうなる事やら？



少しでも、皆様と共に自然に寄り添う生き方が見いだせたらと思っております。もし興味がありましたらお声をかけて下さい。亮観拝





日本仏教に登場する  
 仏様を毎号少しずつご紹介。未だ感  
 染症が猛威を振るっている為、今回  
 も除災に御利益があるお方をご紹  
 介します。

● 明王部 孔雀明王 ひばりみんおう

今回は動物の孔雀に乗った仏様  
 で、正式には「**仏母大孔雀明王**」と  
 いい除災や息災の御利益があるとさ  
 れます。

他の仏様と同様に、元々はインド  
 の神様出身で、「マハーマユリー」とい  
 う女神でした。和訳すると「偉大な  
 孔雀」という意味合いを持ちます。  
 インドにおいて孔雀はとても大切  
 にされており、現在でも国鳥として  
 重宝されている生き物です。そんな  
 孔雀が神格化され女神となり、仏  
 教にも取り入れられ現在の姿に至  
 ります。

では、なぜ孔雀を重宝しているの  
 かと言いますと、インドでは昔から  
 毒蛇が多く生息しており、蛇にかま  
 れて命を落とされ方が大勢居られ  
 ます。そんな中、孔雀は毒蛇を恐れ  
 るどころか餌として好んで食べるそ  
 うです。その事から、災い(毒蛇)を  
 払う生き物として敬意を払い、神格  
 化されました。

さらに神様となった孔雀は災いだ  
 けで無く、人々を苦しめる苦痛や人

を惑わす煩惱など、全ての厄災か  
 ら護ってくれる存在へと変化してい  
 きました。

また、孔雀は雨季の到来を告げ  
 る生き物であるらしく、恵みの雨  
 をもたらす仏であるとも言われて  
 おります。

そんな孔雀明王の身体的特徴  
 は、なんとと言っても孔雀に乗っている  
 事ですが、「明王」と名の付く仏様  
 では唯一、怒った顔をしておらず優  
 しい顔立ちをされています。

また、明王特有の武器も持たず  
 「災いを退治する」というザクロや、  
 「息災」を示す孔雀の尾羽、「敬愛の  
 象徴」の蓮の花、それらの利益を増  
 益するというレモンに似た果物を  
 手にしている事も特徴です。

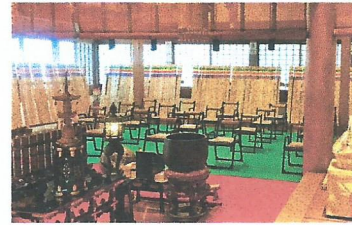
「新しい生活様式」の中、油断の  
 出来ない日々が未だ続きますが、  
 小さな事からコツコツと一人一人が  
 思いやりを持って行動することで、  
 また平穏な日々がいち早く戻るこ  
 とを切に願います。 亮澄拜



〔国宝 孔雀明王図〕

コロナ騒動も収束し始めたかに  
 見え、深大寺界限では以前の様相に  
 戻りつつありましたが、ここ数日は  
 感染者数も増え、加えて連日の悪  
 天候により九州など多くの被害が  
 出ております。一刻も早い回復を  
 日々祈っております。

## 深大寺で施餓鬼会



深大寺では  
 七月五日に新盆  
 供養の施餓鬼会  
 が行われまし  
 た。今年は各世  
 帯代表者一名の  
 みの参加とした  
 ことで寂しい施  
 餓鬼法要となっ  
 てしまいました

がこれも仕方有りません。しか  
 しながら法要には行けなくても  
 例年通りご先祖を供養したいと  
 願う方は多く、申し込まれた一  
 三〇〇本以上の蘭盆卒塔婆が  
 本堂に所狭しと並びました。

## お盆に向けて

お盆が始まります。仏壇の掃除  
 やお供えを用意して故人様の菩  
 提を共に祈りできれば幸いです  
 が、昨今の事情も  
 ありますので、  
 お盆参りに際し  
 ご不安のある方は  
 遠慮なくお寺まで  
 ご連絡下さい。亮敬拜



七月五日(日曜)  
 東光院の恒例と  
 成ったジャガイモの  
 収穫祭を行いました。  
 天候の悪い  
 中、百人以上の参  
 加を頂きました。  
 真に有りがたい事  
 と存じます。



今年は連日雨模様で、毎日  
 どうぞ降りませんようにと念  
 じておりました。すると当日  
 の午前中だけは雨も降らず  
 芋掘り日和でした。しかし  
 午後からはパラパラと降り出  
 して来たのですが、横浜から  
 おいで頂いたご家族は小雨交  
 じりの中、ワンちゃんと泥だら  
 けに成りながら芋掘りを楽  
 しんで下さいました。



今年にはコロナ  
 ウイルスの関  
 係で楽しみ  
 にして居た  
 掘立のジャガ  
 イモを調理して皆さんと共に  
 頂く事が出来ず悔いが残って  
 しまいました。来年にはウ  
 イルスも終息して居るもの  
 と思います。又皆様とお会い  
 できる事を楽しみにしており  
 ます。又、関係者の皆様には大  
 変お世話に成りました。お陰  
 様で人と人共に  
 寄り添う事が  
 出来ました。心  
 より御礼申し  
 上げます。

